

方法：6～15歳の HSPN 患児18名（男10名，女8名）を対象とし，健常成人10名を比較した。IgA bearing cell の測定は flow cytometry による two-color-analysis を用いて行った。

結果：(1) 小児 HSPN において正常コントロールに比し IgA bearing cell の有意の上昇が認められた。(2) IgA bearing cell は病初期に最高値を示し漸減する傾向が認められた。(3) IgA bearing cell を血清 IgA 値との間には相関は認められなかった。(4) 血漿交換療法により臨床症状の改善とともに IgA bearing cell も減少する傾向が認められた。(5) HSPN 患児の母親においても IgA bearing cell の増加傾向が認められた。

20. 抗原経口投与によるぶどう膜炎発症の研究

(第二病院眼科)

神崎 雅子・高野 真綾・宮永 嘉隆

目的：ベーチェット病などの内因性ぶどう膜炎の，発症機序に感染免疫が考えられている。今回，連鎖球菌抗原で感作した兎に抗原の経口投与により，ぶどう膜炎が発症できるかどうか，実験を行なった。

方法：抗原は Streptococcus sanguis 2株 (KTH3, KTH4) を使用した。静注感作し，抗体価の上昇を確認後，抗原を腸溶カプセルで投与した。1群は腸内の細菌叢を破壊させる目的で，KM 500mg, PC-V 2g 経口投与させた。眼所見はスリットランプによる所見，眼底所見，レーザーフleaーセルメーターを使用して測定した。

結果：KTH3で感作した兎の KM, PC-V 処置群の内，1匹の片眼と他の1匹の両眼にフィブリン様析出物を認め，KTH4で感作した兎の1匹の両眼と他の1匹の片眼においては，レーザーフleaーセルメーターで炎症所見が確認された。

21. 鼻アレルギー患者における Fcε レセプターの動態

(耳鼻咽喉科)

窪田 市世・森田 恵・石井 哲夫

(皮膚科)

檜垣 祐子・

川島 真・肥田野 信

IgE の Fc 部分に対するレセプターのうち，B リンパ球に存在する FcεRII は，B 細胞の分化に伴って発現し，IgE の産生の調節を行っていると考えられている。今回我々は，モノクローナル抗体を用いてフロー

サイトメトリーにより FcεR+B 細胞を測定し，IgE や鼻アレルギー症状との関連性について検討した。

結果：①鼻アレルギー患者では，正常者に比べ有意に FcεR+B 細胞が増加していた。また血清 IgE 値が高い患者ほど FcεR+B 細胞が多い傾向がみられた。②通年性鼻アレルギー群では正常者との間に有意差があったが，季節性鼻アレルギーでは有意差はみられなかった。③鼻アレルギーの症状が重症であるほど，FcεR+B 細胞が多い傾向がみられた。

以上の結果より，FcεRII は鼻アレルギーにおいて，IgE ならびに鼻症状と深い関連があり，症状の変化を知る上で有用であると考えられた。

22. HBs 抗原に対する免疫応答における class 2 抗原の役割

(消化器内科)

鈴木 義之・春田 郁子・鴨川由美子・

中村 哲夫・孫 野青・石黒 典子・

磯野 悦子・山内 克巳・小幡 裕

HBs 抗原に対する免疫学的非応答性において HBs 抗原特異的抑制性 T 細胞が重要な働きを担っていることは既に報告してきた。今回，我々は健常者の末梢血リンパ球を用いて抑制性 T 細胞の誘導を試みたので報告する。

方法：(1) HBs 抗体産生：HBs 抗体を有する健常者に HB ワクチンを接種し，その末梢血リンパ球を，0.2μg/ml の HBs 抗原と 0.5μg/ml の PWM を加え培養し，3日後に洗浄し，抗原を加えない状態で7日間培養後その培養上清中の HBs 抗体価を ELISA 法を用いて測定した。(2) Ts の誘導：上記の HB ワクチン接種者の T 細胞を 3,000R の放射線を照射した非 T 細胞と共に 20μg/ml の HBs 抗原存在下で培養し，5日後にその抑制活性を，上記の HBs 抗体産生系に加え検討した。

結果：高濃度の HBs 抗原存在下で培養した T 細胞を加えると HBs 抗体産生のみ著しく抑制され，他の抗体産生には影響を及ぼさなかった。この抑制活性は，CD8陽性細胞により担われていることが明らかとなった。また，抗 DQ 抗体を用いることにより Ts の誘導が阻止できた。このことより，CD8陽性の HBs 抗原特異的 Ts が誘導され，DQ 抗原がその誘導に関与していることがわかった。